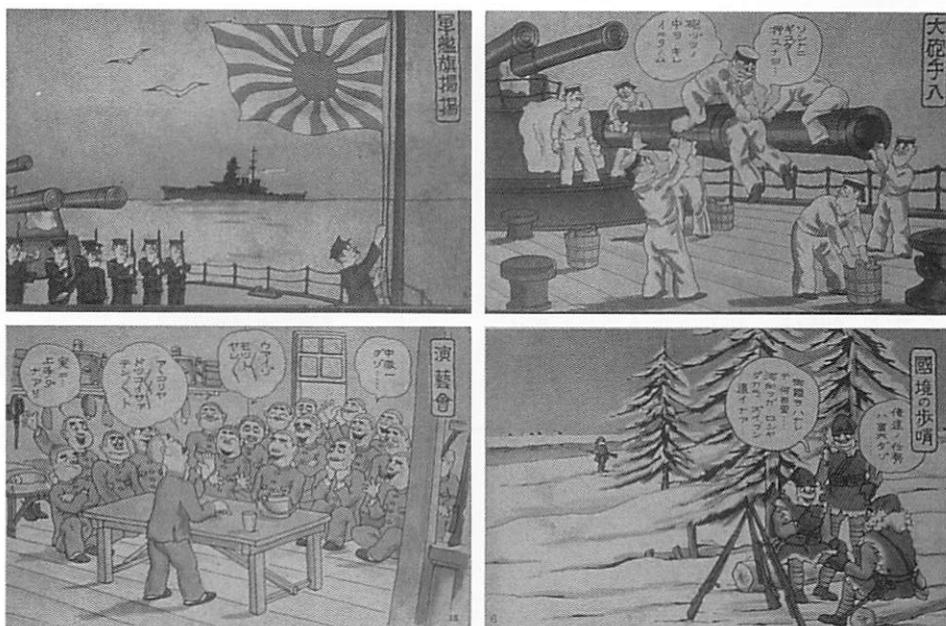


市立函館博物館館報

1995. 3. 15

戦争とマンガ



ここで紹介する資料は「軍隊漫画絵はがき」45枚です。種類は3種類あり、海軍関係21枚（重複3枚含む）・陸軍関係13枚・戦地における陸軍の活動11枚です。内容は軽快なタッチでユーモラスに軍隊生活を紹介しています。製作年代は不明ですが、宛名面に「POST CARD」・「MADE IN JAPAN」の文言があること、ソ連国境警備の内容があることから大正から昭和初期のものと思われます。

近年歴史学の分野において、絵画史料から当時の社会状況などを読み取る方法論が積極的に試みられています。この方法論はおもに古代・中世の絵巻物などを対象としていますが、なにも古代・中世に限られたものではなく、近・現代の絵はがきやマンガなども対象とすることができます。

テレビの無い時代、マンガはこどもにとって視覚に訴える数少ない娯楽だったのではないでしょうか。そのため、マンガがこどもの思想形成に与えた影響は大きなものであったと思います。戦時下、国家による文化統制によりマンガも例外なく軍国主義色の強いものとなり、学校教育とともに「国威発揚」の原動力に利用されています。

マンガの内容から当時の政治・社会状況を読み取るだけではなく、その読み手の心理に注目する必要があると思います。戦時下に軍国主義色の強いマンガを読んだ人たちが何を感じたかを調べることは、日本が戦争へ走った背景を、政治的視点からではなく普通のひととの視点から解きあかしていくひとつのカギとなるのではないかでしょうか。

〈学芸員：保科 智治〉

平成6年度特別企画展「函館大火」報告

学芸員 保科 智治

“夜景の街”・“異国情緒あふれる街”函館は幾度かの大火に見舞われています。その中でも世界の大歴史に残るといわれる、昭和9(1934)年3月21日の「函館大火」から平成6年で60年が経ちました。今回の特別企画展は、失われつつあるかつての惨状の記憶と資料を掘り起こすとともに、街の形成と大火との関係を探っていくことに視点をおいてみました。

今回の特別企画展は、市民の方々から寄せられた数多くの資料と情報によって成り立っています。大火に関する資料が充分とはいえないなかため、市民の方々に呼び掛けを行なったところ約250点の資料が集まりました。「大火絵はがき」がその中心を占めますが、小学生の文集や津軽要塞司令部の検問を受けていない写真、当時としてはたいへん貴重な映像フィルムなども含まれています。

展示内容は、「大火のまち函館」・「炎に包まれたまち」・「助け合う人々」・「火災と街づくり」という4コーナーを設け、明治から昭和9年までの函館の大歴史、昭和9年の大火の様子、昭和9年の大火後

の人々の様子と復興そして大火と函館の街の形成との関係を中心に構成しました。

内容的に必ずしも充分といえる展示ではありませんでしたが、5月3日から8月31日という長期間に約8,000人の方々に観覧していただき、その中にはかつての惨状を思い出し涙を浮かべている方、亡き父や母にみせてあげたかったという方もいました。地味ではありますが、地域に密着した企画展の重要性を改めて感じさせられました。



観覧風景

平成6年度特別展「箱館夢日記」報告

学芸係長 岡田 一彦

幕末、日本各地から使命を帯びて、また夢を抱いて多くの人々が箱館にやってきました。箱館奉行ら幕府の役人、蝦夷地警備の東北諸藩の武士、中でも南部藩は箱館と深い関わりがありました。その上、津軽海峡を挟んで函館から遠望できる対岸の下北半島は、当時南部藩領でした。

さて、このたびは、盛岡市中央公民館から貴重な南部家の歴史資料を出品していただきました。また、

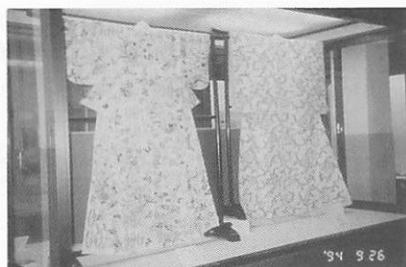
ラックスマン来航やゴローニン事件、ペリー来航などに関わる蝦夷地警備の資料を展示しました。

今回特に力を注いだのは、大洲藩出身の武田斐三郎に関するコーナーでした。箱館奉行のもとで箱館勤務に着いた約10年の間に、五稜郭や弁天岬台場の築造などで、彼の持てる知識を充分発揮できました。箱館時代以外の斐三郎のことは、あまり知られていませんが、彼の人生は箱館なくしては語れません。

そして同じく鉱山・製鉄の専門家として箱館奉行の支配下で勤いた南部藩の大島高任についても焦点を当ててみました。

やがて、戊辰戦争となり南部藩は奥羽越列藩同盟に加わり、大勢を見極められず最後まで新政府軍と戦います。かたや箱館でも榎本武揚らが日本の大勢に反して戦いを挑んでいます。

平成6年7月26日から9月25日まで五稜郭分館で開催し、会期中の観覧者は22,375人でした。



南部家の女装束展示風景

平成6年度特別企画展「ロシア極東諸民族の歴史と文化」展 報告

学芸係長 岡田 一彦

平成6年10月10日から市立函館博物館が中心となって、ロシア科学アカデミー極東支部極東諸民族歴史・考古・民族学研究所の所蔵資料による特別企画展を函館市北方民族資料館を会場に11月20日までの会期で開催しました。

このロシア科学アカデミー極東支部は、ウラジオストク市にあり、函館市は平成4年に姉妹都市提携を調印しています。その文化交流の一環として平成5年度から本展が企画されていましたが、ようやく実現することができました。

出品資料は、開拓記念館から巡回展の形で引き継



展示風景



開会のテープカット

ぎました。当然札幌から函館への資料運搬・開催中の管理、会期終了後ウラジオストク市までの輸送・管理責任は当館にあり、これらに掛かる費用は全額当館が支払うことになります。事故がないよう注意を払いましたが、返却まで落ち着かない日々でした。

開催中にロシア科学アカデミー極東支部の職員を函館に招聘しましたが、この間の言葉の壁が難しい問題でした。通訳も専門用語には困ったようで、今後検討を要する課題となりました。

この経験が当館学芸員にとって、頻繁になるだろう日口の文化交流に役立つものと期待しています。

ウラジオストクを訪問して

学芸員 野村 祐一



ロシア科学アカデミーにて

平成6年度特別企画展「ロシア極東諸民族の歴史と文化」展の終了にともない、函館市北方民族資料館長谷部一弘館長とともに、ウラジオストク市にあるロシア科学アカデミー極東支部極東諸民族歴史・考古・民族学研究所を訪問しました。

1月12日、大雪の新潟空港を発ちウラジオストク空港へ到着した私たちは、ロシア科学アカデミーのアフォーニン副所長らの出迎えを受けました。

1月14日、15日には展覧会で資料を展示了した渤海・金時代のニコラエフカ遺跡とシャイガ城郭跡を見学し、また、セルゲイフカ村の郷土博物館や同村の学校の郷土資料室を訪問しました。

ウラジオストクに戻った後、研究所付属博物館の収蔵資料を拝見したり、沿海州立アルセイニエフ博物館を訪問するなど貴重な経験ができました。

そして、今後の学術交流、共同調査について話し合い、1月19日にウラジオストクを後にしました。

沿海地方の資料を観察し、日本と同様、中国から

の強い影響力や、特にロシア帝国以前の沿海地方と北海道との関係の深さを感じました。

最後に、今回の特別企画展の開催にあたっては、北海道開拓記念館、財団法人函館市文化・スポーツ振興財团の方々に多大なるご協力を賜りました。心からお礼を申し上げます。

平成6年度企画展「新 収 藏 資 料 展」報告

学芸員 佐藤 理夫

平成6年9月20日～11月13日に実施した平成6年度企画展「新収蔵資料展」では、平成5年度中に寄贈された資料、購入した資料あわせて98件440点を展示公開しました。

資料の内訳を見ると、自然科学資料が16件16点、民俗資料が35件188点、歴史資料が45件233点となっています。

自然科学資料のうち、渡島支庁から寄贈されたヘラサギは、ヨーロッパ南部～モンゴル・ウスリー川流域で繁殖し、冬は中国南部～アフリカ北東部に渡ります。日本には冬鳥として渡来しますが、数は多くありません。この鳥はオランダの国鳥で、ワシントン条約附属書II適用鳥となっています。本資料については、収集経過が不明となっているのが大変残念です。

民俗資料のうち、人形関係資料には雛人形・舞踏人形・五月人形があり、雛人形については、露出展

示をすることで、並べ方が関西と関東では異なることを示しました。他には、世界中の写真の大衆化に貢献したといわれるイーストマン・コダック社製の小型カメラ、昭和25年に函館市立愛宕中学校で購入された邦文タイプライター等を展示しました。

歴史資料は、地図や絵はがき類が多く、この中に平成6年度特別企画展「函館大火」の準備中に寄贈していただいた資料も含まれています。



翼を広げたヘラサギ

平成6年度 教育普及事業「博 物 館 講 座」報告

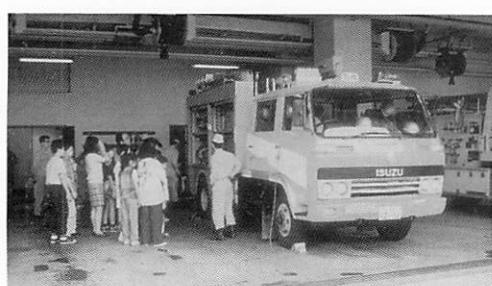
学芸員 尾崎 渉

今年度の博物館講座は、例年開催している講座毎に完結する単講座に加え、新たに一つのテーマについて参加者と学芸員が一年間研究・調査的な活動を行なうワークショップ型講座（通年講座）を開催しました。この講座については、次頁で詳しく紹介していますのでここでは単講座について紹介します。

単講座は昨年5月～今年1月まで各分野別に16講座を開催、431名の方に参加いただきました。16講座のほとんどが参加体験型となっており、特に「函館大火展観覧と消防本部見学会」では特別企画展の解説



親子自然体験教室の参加者



函館消防署にて

に加え、函館市消防本部の協力で消防本部施設等の見学を行ない好評を得ました。また、例年開催している野外キャンプの「親子自然体験教室」はじめ、バスで函館郊外の自然林観察や史跡を訪ねる講座についても小学生からお年寄りの方まで幅広い層の参加となっています。

当館では来年度以降も博物館講座を教育普及事業の中心に位置付け、単講座は対象を絞る形で開催し、通年講座は改善を計り、ともに充実させていきたいと考えています。

「博物館ワークショップ」を探る

◇ワークショップって何?◇

今年度から博物館講座に登場した「ワークショップ」とは、本来は「仕事場」という意味ですが、ここでは今までの講座が講師の話を聞くだけのいわ

ば一方通行であるのに対して、学芸員と参加者が一つのテーマをともに調査・研究していく講座の場をいいます。通年で自主的に体験する楽しい講座です。

ワークショップ(1) 函館の星空を探ろう

当館の天体観測講座は、比較的早い時期から開催し多くの小学生が参加してきたニーズの高い講座の一つです。昨年までは単に四季の天体を天体望遠鏡などを使い参加者に説明、見せてきた、いわば観望会の形式でした。しかし、この講座を続けていくうちに、参加者の固定化が顕著になり、その方々が親子ともに天体観測を始めたというケースがでてきたの

学芸員 尾崎 渉

です。幸いにして天体観測用の機材が揃ってきたこともあり、参加者と一緒に函館の星空を観測してまとめてみようとしたのが「ワークショップ函館の星空を探ろう」です。小学生から主婦までの31名が参加、月1回のペースで観測、記録等を行なってきました。今年度がスタートですので、徐々に改善し、将来は函館天体マップ作成を目指します。

ワークショップ(2) 函館の身近な自然を探る

平成4年度と平成5年度に、単講座として「函館山の自然体験教室」を実施してきましたが、今年度から、この単講座に加えて、ワークショップという参加者を固定した月1回の連続講座を実施してきました。

単講座だとどうしても一過性になりやすく、野鳥の名前とか植物の名前とかを覚えるのが精一杯です。ですから、自然の仕組みを知るところまで行かない

学芸員 佐藤 理夫

のが実状です。一年を通して身近な自然をじっくり見ていくことは、自然というものを考える上で、重要なことだと思います。

今年度は手始めに、13名の参加者とともに函館山での自然観察を始めました。全日程を通じて全員が揃ったことは少ないのですが、参加者は、一年間の観察を通して、函館山の生き物の移り変わりを感じとっているようです。

ワークショップ(3) 箱館戦争の史跡を探る

今年度歴史分野における通年講座は、函館市内に残されている箱館戦争戦死者墓碑の調査と、市立函館図書館所蔵の箱館戦争関係文献資料の調査を行なうことを目標としました。

1回目は概説、2~6回目は市内3ヶ所の墓碑調査、7・8回目はカード整理、9~12回目は文献調査を行ないました。墓碑の調査方法はカードにスケッチ・計測・碑文を記入する形式としました。調査点

学芸員 保科 智治

数は「官軍海軍墓地」(船見町)5基、「函館護国神社」(青柳町)59基、「大円寺」(神山)3基の計67基です。文献調査も資料名・内容等をカードに記入する形式としました。

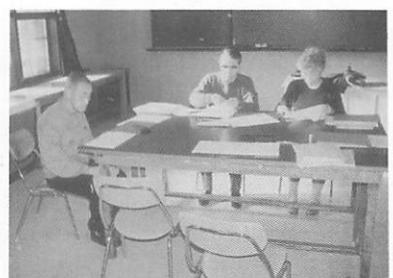
参加者は調査未経験者3名と少人数ですが、はじめの頃こそとまどい気味でしたが、現在では自ら積極的に調査を行なっています。この調査で得られたものは何らかの形で発表していきたいと思います。



天体望遠鏡で星を観察するこどもたち



函館山の自然観察



箱館戦争の調査をもとに資料カードを作成

平成6年度新収蔵資料紹介

平成6年度は函館大火関連の資料をはじめ、たくさんの資料をご寄贈いただきありがとうございました。今年度12月31日までに受け入れた資料を下記に紹介します。これらの資料は、平成7年度の新収蔵資料展でみなさんにお披露目する予定です。

○寄贈資料

- ・卓上手動計算機（レジスター） 1件（1点）
 - 【辻 信子氏寄贈・函館市東川町7-3】
- ・昭和9年函館大火絵はがき 1件（8点）
 - 【滝澤 チヨ氏寄贈・上磯町七重浜3-11-3】
- ・昭和9年函館大火絵はがき 1件（9点）
 - 【石川 国雄氏寄贈・函館市海岸町11-45】
- ・昭和9年函館大火絵はがき 他 2件（12点）
 - 【増田 善造氏寄贈・函館市富岡町2-30-8】
- ・昭和9年函館大火絵はがき 2件（12点）
 - 【木村 幸太郎氏寄贈・大野町本町247-1】
- ・昭和9年函館大火遺物 1件（3点）
 - 【外山 友江氏寄贈・函館市千代台町15-17】
- ・錢貨 1件（216点）
 - 【井上 妙子氏寄贈・函館市千代台町13-2】
- ・函館區劃整理地圖 1件（1点）
 - 【大畑 真一氏寄贈・函館市山の手2-28-33】
- ・昭和9年函館大火絵はがき 1件（8点）
 - 【林 五郎氏寄贈・函館市上野町35-14】
- ・昭和三十年七月八日 洞爺丸遭難事件海難審判記録 1件（1点）
 - 【江口 三郎氏寄贈・函館市富岡町2-45-6】
- ・竿ばかり 他 7件（10点）
 - 【三浦 徳治氏寄贈・函館市亀田中野町23-126】
- ・映画館入場券 1件（2点）
 - 【佐藤 一成氏寄贈・函館市西桔梗町744-10】
- ・鉤付竿ばかり 他 2件（2点）
 - 【長尾 芳夫氏寄贈・函館市杉並町18-20】
- ・金庫 他 2件（2点）
 - 【滝沢 敏江氏寄贈・函館市日吉町2-25-20】
- ・ハシボソミズナギドリ 他 2件（2点）
 - 【北海道大学水産学部助教授 小城 春雄氏寄贈・函館市港町3-1-1】
- ・足袋（袋入り） 1件（5点）
 - 【津軽 正氏寄贈・函館市田家町10-6-106】
- ・ウミガラス 他 7件（7点）
 - 【渡島支庁寄贈・函館市五稜郭町26-8】
- ・旧小林写真館写場資料 29件（49点）
 - 【小林 信夫氏寄贈・函館市大町2-9】

- ・焼失前の松前城（油彩・岩船修三画） 1件（1点）
 - 【熊沢 妙子氏寄贈・函館市柳町14-7】
- ・ロシア極東少数民族使用の防寒用具 1件（1点）
 - 【梅木 孝昭氏寄贈・苦小牧市美園町2-17-3】
- ・写真機（ポケット型） 1件（1点）
 - 【能山 精祐氏寄贈・函館市昭和町3-17-11】
- ・行李 他 23件（23点）
 - 【塚本 エミ子氏寄贈・函館市柏木町24-9】
- ・ひな人形一式 1件（89点）
 - 【遠藤 千枝氏寄贈・函館市弁天町1-6】

○寄贈図書

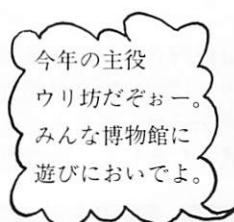
- ・函館大火史 1件（1点）
 - 【大畑 真一氏寄贈・函館市山の手2-28-33】

入館状況報告

本館・特別企画展「函館大火」	8,042人
五稜郭分館・特別展「箱館夢日記」	22,375人
本館・企画展「新収蔵資料展」	1,568人
北方民族資料館・特別企画展 「ロシア極東諸民族の歴史と文化」展	4,140人

職員の異動紹介

- 七尾佳佑分館長発令（4月15日付）
- 田原良信学芸員文化財課へ異動（4月1日付）
- 霜村紀子学芸員発令（5月1日付）
- 新田由紀臨時職員採用（4月1日付）



日ノ浜遺跡動物土偶

Hakodate City Museum News
SARANIP—サラニップ— No.34 1995. 3. 15発行
編集・発行 市立函館博物館 (TEL 0138-23-5480)
北海道函館市青柳町17-1・函館公園内 (〒040)